

江藤新平関係文書―書翰の部（五）―

江藤新平関係文書研究会（代表 島善高）

九八 参議・納言回状書翰

西郷兵部権大承殿

1 (明治四年) 二月十三日

(一枚一八cm 江013-240)

編者註

①本書翰は巻紙。

②警固卒については、『明治史要』明治四年二月十三日条に「鹿兒島、山口、高知三藩ノ兵ヲ徴シテ、親兵ト為シ、之ヲ兵部省ニ隸ス（鹿兒島藩、歩兵四大隊、山口藩、歩兵二大隊、高知藩、歩兵二大隊、騎兵二小隊、砲兵二隊）とある。

漸春和相催候、愈御清適珍重存候、陳者御用召御面会ニ而可申入
処、先以書状申入候、東京府中取締之為メ警固卒被置候ニ付、規則
人員等凡而取調付候、尤大木殿ニハ兼而御内評御承知之事と存候、
御四銘之外猶東京府打合之義も可然御取計可賜候、右令啓度如此候
也

二月十三日

九九 三條家執事書翰

参議
納言

1 () 七月十日

大木民部大輔殿

江藤中辨殿

山縣兵部少輔殿

(巻封)「江藤中辨殿 三條家

執事」

御面談被成度候間、明十一日十二字御入来御坐候様可申入旨被申付候、仍此段得貴意度如此ニ御坐候、已上

七月十日

(一枚一六 cm 江 013-241)

編者註

①江藤新平が中辨であつたのは明治二年十一月七日から同四年七月十四日まで (二官履歴 (一))。

2 (一) 五月十一日

(巻封) 「江藤中辨殿 三條家

執事」

益御清祥御奉職奉欣然候、陳ハ日来御所旁御引籠御坐候よし、就而ハ追日御快氣ニも被成御坐候哉、若明日ニも御出勤相成候ハ、右府殿少々御面談被成度義御坐候ハ、明夕景乍御苦勞御入来被下候様可申入旨被命如斯御坐候、勿々

五月十一日

再伸本文御入来之義ハ、明日ニても明後日ニても御出勤之上ニてよろしく、只々御出勤次第時刻御入来只々祈候

(一枚一七 cm 江 013-242)

編者註

①右府殿は右大臣三條実美。

3 (一) 三月四日

(巻封) 「江藤中辨様 三條家

側」

愈御清康奉賀候、陳ハ来六日八字御會議有之候居間、當家へ御出頭御座候様可申入旨被申付候、仍右得貴意候也

三月初四

(一枚一六 cm 江 013-243)

4 (一) 三月五日

(巻封) 「江藤中辨様 三條家

側」

愈御多祥奉賀候、陳ハ明六日第八字當家へ御出頭御座候様昨日申入置候之處、明日第十字御出頭御坐候様可申入旨被申付候間、此段得貴意候也

三月五日

(一枚一六 cm 江 013-244)

5 (一) 七月二十二日

記

一、御昏面 壱通

右正三落手被致候也

七月廿二日

三條家

偶

(一枚一六 cm 江 013-245)

編者註

①本書翰は切紙。

6 (明治五年) 八月十九日

(巻封)「江藤司法卿殿 三條家

御執事中 側」

弥御清適奉賀候、陳者今日二字迄ニ御参 朝有之度旨可申上候様被
申聞候間、此段各様方迄申上候間、宜布御執計可被下候、得貴意如
此ニ御座候也

八月十九日

(一枚一六 cm 江 013-246)

2 (明治六年) 一月二十五日

(巻封)「江藤司法卿殿 実美」

一〇〇 三條實美書翰

1 (明治五年) 五月二十一日

(巻封)「江藤司法卿殿 実美」

二伸、別紙板垣へ入覽相成候様致度候

昨日抑留候書取返却候、落手有之度候、教部之事も如此事ニ相成候
而者、国家之盛衰ニも関係不容易義と痛心之事ニ御座候、就而者高
按之通、双方共一先相離れ候方、上策と存候、何卒昨夜相頼候通、
板垣へ今日中是非乍苦勞談合有之度候、猶福羽へ者從足下内々忠告
有之候様仕度候、愚存ハ昨夜申入候通ニ御坐候、仍此段密ニ申入
度、一筆進達致候也

五月廿一日

(一枚一九 cm 江 013-247)

編者註

①福羽は明治五年三月十四日に教部大輔に任じられた福羽美静(一
八三一〜一九〇七)。同年五月二十四日、免本官。同日、御用滞在
被仰付候事。同年七月二十七日、宮内省三等出仕被仰付候事(『百
官履歴(一)』)。

②『明治史要』明治五年五月二十四日条に「教部大輔福羽美静ヲ罷
メ、宍戸璣ヲ以テ之ニ代ヘ」云々とある。

至急之用事出来候間、明朝九字入来有之度候、今日辞表之趣も有之
候得共、要用ニ付是非入来可有之候、仍此段申入度如此候也

一月廿五日

(一枚一六 cm 江 013-248)

編者註

① 辞表とは、江藤新平が予算問題を理由に、明治六年一月二十四日付で辞表を提出し、また司法大輔福岡孝弟も一月二十五日付で辞表を提出したことをさす（的野半助『江藤南白（下）』）。

3 〔明治四年〕一月三十日

（巻封）「江藤中辨殿 実美」

過日申入置候華族議事院之儀、早々取調致候様有之度候、仍此段申入候也

正月冊日

（一枚一八 cm 江 013-249）

4 〔明治五年〕四月十二日

（巻封）「江藤議長殿 実美」

面會致度候間、唯今参

朝有之候様致度候、仍此段申入候也

四月十二日

（一枚一八 cm 江 013-250）

5 〔明治五年〕五月十一日

（巻封）「江藤司法卿殿 実美」

梅霖鬱陶候、益清康大賀候、頃日来所勞之由如何、可養專折候、然ハ足下渡洋之御願、大久保同行可有之申達置候得共、司法省之義二付御用有之候間、暫時相見合、追而発港可有之候、猶今御用向申入度候間、所勞少快候ハ、入来有之度候、萬々期面晤候、前段而已申入度、如此候也

五月十一日

（一枚一五 cm 江 013-251）

6 〔明治六年〕五月十二日

（巻封）「江藤参議殿 実美」

大蔵両輔免官二付、本省之事務も多端二候間、前嶋驛通頭を三等出仕二被仰付候而可然、大隈参議見込二有之候、所存有無承度候、差急候事二付、以紙面申入候也

五月十二日

（一枚一五 cm 江 013-252）

編者註

① 大蔵両輔とは井上馨と渋沢栄一のこと。井上と渋沢はいずれも明治六年五月十四日に「依願免本官、但位記返上ノ儀不被及御沙汰候事」との辞令を受けている（『百官履歴（一）』）。

② 前嶋密が大蔵省三等出仕に任じられたのは、六月十五日のこと（『百官履歴（一）』）。

7 〔明治六年〕五月十七日

(巻封)「江藤参議殿 実美」

弥清康大賀候、然ハ嶋津老卿国事御諮詢被仰付候以来、一事之御下問も無之、有名無実之姿ニ相成候而者不可然、且彼情実ハ追々承知之通都合も有之候間、何ニ而も一二ヶ條国事御諮詢被為在候様仕度、就而者右ノヶ條何ニ可然哉、四五ヶ條御下問相成、可然條件相考、書付致呉候様頼度候、内々要用而已申入度、如此候也

五月十七日

(一枚一八cm 江 013-253)

編者註

①『明治史要』明治六年五月十日条に「参議西郷隆盛ヲ以テ陸軍大將兼参議ト為ス。又島津久光ヲ麝香間祇候ト為シ、国事ヲ諮詢ス」とある。なお的野半助『江藤南白(下)』一四八〜一四九頁に本書翰の写真及び翻刻がある。

8 〔明治五年〕五月十八日

(巻封)「江藤司法卿殿 実美」

昨日内談有之候、司法之事今日評議之心得ニ候處、西郷大隈等不参、不能評議、明日ハ何れ相揃候間、猶明日可及返答候、此段申入候也

五月十八日

9 〔明治六年〕六月十九日

(巻封)「江藤参議殿 実美」

二伸、板垣参議、嶋津從二位ニ面談之次第承知ニ候ハ、入来之節傳話承度候

面會致度候間、今日退出掛入来有之度候、拙者義も風邪ニ而平臥罷在、今日迄ハ不参致候間、乍御苦勞入来頼入候、草々不備

六月十九日

(一枚一八cm 江 013-255)

編者註

①的野半助『江藤南白(下)』一四九〜一五〇頁に本書翰の写真及び翻刻がある。

10 〔明治六年〕六月十一日

(巻封)「江藤参議殿 実美」

面會いたし度義有之候間、今夕六時又ハ明朝八字入来有之候様いたし度候、仍此段申入度如此候也

六月十一日

(一枚一八cm 江 013-256)

11 〔明治五年〕 六月二十五日

(巻封) 〔江藤司法卿殿 実美〕

面會致度候間、今日退出掛入来有之度候也

六月廿五日

(一枚一八 cm 江 013-257)

12 〔明治五年〕 七月三日

(巻封) 〔江藤司法卿殿 実美〕

今朝内話之義ニ付嵯峨卿へ及内問候處、頗情実も相分り、何分面上
ならてハ難相辨候間、乍苦勞明朝十字比暫時參朝有之候様致度候、
仍此段申入度、如此候也

七月三日

(一枚一八 cm 江 013-258)

編者註

①嵯峨卿は嵯峨実愛(一八二〇-一九〇九)。明治五年三月十四日
から十月二十五日まで教部卿(『百官履歴(一)』)。

13 〔明治六年〕 七月四日

(封筒表) 〔江藤参議殿 実美〕

(封筒裏) 〔封〕

(巻封) 〔江藤参議殿 実美〕

弥清康大賀候、然者過日申入候嶋津老人ニ足下面話之義、差支無之
候ハ、乍苦勞行向有之候ハ、都合宜御坐候、頃日来板垣大木等議
論ニ而余程水解之驗も有之候様と承候、本人御登用之義者兎も角、
廟堂之御趣意諒解相成上者、此節建白之答を致候ニも都合能、且者
邦家之為ニも可然相考申候間、一應者面會有之度相考申候間、此旨
以書中申入候條異論無之バ、何卒行向相成候様致度存候、草々不備

七月四日

実美

江藤参議殿

(一枚一七 cm 江 013-259)

編者註

①的野半助『江藤南白(下)』一五〇頁、江藤冬雄『南白江藤新平
実伝』三二八頁を参照。

14 〔明治三年〕 七月二十九日

(巻封) 〔江藤中辨殿 実美〕

(巻封裏) 〔緘〕

昨日中申入置候制度取調之義、実者民藏分割已来彼は紛紜之事情も
有之、旁以前途目之一定之御所分、速ニ取極度候間、精々勉強、至
急ニ取調差出候様有之度候、仍此段申入度、勿々如此候也

七月廿九日

(一枚一八 cm 江 013-260)

編者註

①『明治史要』明治三年七月十日条に「民部、大蔵二省ヲ分チ、民部省ヲシテ、土木、驛通、鑛山、通商、聴訟五司及ヒ杜寺、鉄道、電信、燈台、製係ヲ管シ、大蔵省ヲシテ、出納、用度、營繕、造幣、租税、監督六司及ヒ度量衡改正掛ヲ管セシム。乃チ民部兼大蔵卿伊達宗城ヲ以テ大蔵卿ト為シ、民部兼大蔵大輔大隈重信ヲ大蔵大輔ト為シ、大納言岩倉具視、參議大久保利通、広沢真臣ヲ以テ民部省事務ヲ兼ネシメ、東京府大參事大木喬任ヲ以テ民部大輔ト為ス」とある。

15 〔明治四年〕八月八日

〔巻封〕「江藤殿 実美」

弥清康大賀候、然ハ後藤元燁議長兼務之義、昨日談置候處、行政之人議局を兼勤、於體裁不都合ニ可有之との評議も有之、先相見合候、猶面上可及示談候得共、先右之段申入候、草々謹言

八月八日

江藤中辨殿

実美

(一枚一九 cm 江 013-261)

編者註

①後藤元燁は後藤象二郎のこと。前出書翰七九参照。

16 〔明治六年〕八月十七日

〔巻封〕「江藤参議殿 実美」

明日八字参朝掛入来有之候様いたし度候、仍此段申入候也

八月十七日

17 〔明治六年〕八月二十九日

〔巻封〕「江藤参議殿 実美」

今朝ハ差向面談仕度事件有之候間、八字参 朝有之度候、尤例之通出勤可有之とハ存候得共、為念態と申入候也

八月廿九日

(一枚一八 cm 江 013-263)

18 〔明治六年〕八月三十日

〔巻封〕「江藤参議殿 実美」

明朝七字入来有之度候也

八月三十日

(一枚一九 cm 江 013-264)

19 〔明治六年〕八月三十一日

〔巻封〕「江藤参議殿 実美」

弥清康大賀候、然者今朝も談置候京都府之義、猶熟考仕候處、今日職制規則も追々相備候上ハ、右等之事件、拙者職上ニ於モ兎角周

旋、心配ニも不及事柄ニハ無之哉、京府も正院之指令了解ニ不至、縷々陳情往復日を重ネ、唯上之權を以テ違令之罰を重ね候ても不都合之次第ニ可有之、去迎本人閉口ニ不至内ハ外議も相止不申、所詮此俣ニてハ到底不相濟哉と奉存候、寧ハ前ニ引戻し、北畠建議之通、臨時裁判所相開き、司法省ノ手ニ而取捌、公明正大ニ曲直を別チ判然之処置有之候ハ、府ニ於而も屈服可致、且ハ司法ノ為ニも弥公明正大之処置顯然相顯れ候ハ、却而至幸歎とも考候、唯此俣ニ押付々々致候而者平定之期不可有と存候俣、内々談合仕候、乍併先以明後日會集之上ニ決し候方可致との考ニ候ハ、其上ニてハ宜と存候得共、一日も早く埒明候方可然哉とも存候間、以書面此段申入試候也

八月卅一日

編者註

①京都府云々については、既出九七一書翰参照。

(一枚一九 cm) 013-265

20 [明治六年] 九月二日

(封筒表) 「江藤参議殿 実美」

(封筒裏) 「封」

(巻封) 「江藤参議殿 実美」

京都府知参事糺弾之義、此節臨時裁判所を開き、裁判も有之候運ニ相成候ハ、糺弾之義ハ暫猶豫致候方可然候半歟、尤事柄ハ別ニ候

得共、其源因ハ一本ニ候得者臨時裁判結局之處、其曲直何れニ歸し候も難計義ニ候へ者、却而後日不都合相成候而も如何と存候間、暫猶豫有之度事ニ存候、尚勘辨有之度候、右内々申入度、如此候也

九月二日

一昨日約置候通、今日午後四字入来有之度候

(一枚一八 cm) 013-266

21 [明治六年] 九月二日

(封筒表) 「江藤参議殿 実美」

(封筒裏) 「緘」

拙者義、今日下痢致不能出勤候条、宜御含有之度候、然者臨時裁判所相開候義、今日司法集會之上、其都合ニより弥前段決し申度存候、右等足下へハ一昨過日申入候得共、他之参議中へハ未申入候間、評議有之度候、仍右足下へ相頼申候、草々不備

九月二日

(一枚一七 cm) 013-267

編者註

①本書翰は巻紙。

22 [明治五年] 九月二日

(巻封) 「江藤司法卿殿 実美」

暫時面會仕度候間、一兩日中御用見合參朝有之度候、仍此段申入候也

九月二日

(一枚一八 cm 江 013-268)

23 (明治五年) 九月三日

(巻封)「大隈参議殿 実美」

以紙面申入候、江藤司法卿洋行之義、既發途之期も相迫候程之義ニ付、今更猶豫も難相成都合ニ有之候得共、情相考候得者、方今司法専創業端緒を開き候事ニ而、尤肝要之折柄ニ付、卿發途後も唯保守而已ニ従事候事も難相成歟、彼是勘考致候得者、洋行之義も急務勿論候得共、即今之内務ニ比較致候得者、輕重緩急如何を不可知、可相成ハ先以當年中位ハ延引相成候而者如何可有之哉、今日ニ至發途も切迫致居事故、不都合とハ萬々存候得共、憂慮之餘先申試候、猶賢慮承度候、今日ハ參朝可申談心得之處、風邪ニ而出仕相成兼、乍略義以一書申入候、板垣へも御申入有之度、草々要用而已、如此候也

九月三日

(一枚一七 cm 江 013-269)

編者註

①的野半介『江藤南白(下)』一二三〜一二四頁に本書翰の写真及び翻刻がある。

24 (明治六年) 九月三日

今日拙者義佛公使ニ引合有之、出勤遅刻ニ可相成と存候間、昨日内談之次第詰合参議中へ評議之上無異議候ハ、司法大輔江足下御含メ有之度候、猶表面拙者も可申達候得共、遅参之間足下江相託候都合ニ而、裁判之手順精細取調之義、篤と承諾致候様申談頼度候、仍右申入度、紙面差達申候也

九月三日

実美

江藤参議殿

二伸、此節之義別格之譯を以、直ニ本省へ上告云々も能々申聞有之度候

(一枚一八 cm 江 013-270)

編者註

①本書翰は巻紙。

②佛公使は、第五特命全權公使、シエル・フランソワ・ギエスターウ

・ベルテミー(明治史要附表)。

③司法大輔は元土佐藩士の福岡孝弟(一八三五〜一九一九)。

25 (明治五年) 九月九日

(巻封)「江藤司法卿殿 実美」

弥清康大賀候、然ハ足下洋行之義ハ延引相成候處、同省川野已下之處ハ、総而頃日来被仰付候通、近々發途相成候哉、一兩日所勞不参ニ付承知不仕、内々相尋申候、一筆回答有之度候、草々如此候也

九月九日

編者註

①「川野」とは、司法少丞の河野敏鎌のことか。河野については既出書翰六〇一、七五、七六など参照。

②的野半介「江藤南白（下）」一二五頁に本書翰の写真書翰の翻刻がある。

26 「明治六年」九月二十七日

（巻封）「江藤参議殿 三條太政大臣」

本日者依所勞出勤不被致候處、明日ハ相談致度事件有之候条、押而も出勤有之候様いたし度、此段申述候也

九月廿七日

（一枚一七 cm 江 013-272）

27 「明治五年」十月三日

（巻封）「江藤司法卿殿 実美」

面會致度候間、今日十二字迄ニ暫時参廷有之度候、仍此段申入候也

十月三日

若今日差支候ハ、明日参朝可有之候

（一枚一八 cm 江 013-273）

28 「明治三年」七月五日

（巻封）「江藤中辨殿 実美」

明日九字一同集会、就而者其已前示談仕度候間、足下ニハ七字ハ早参有之候様致度候、仍如此候也

七月五日

（一枚一七 cm 江 013-274）

29 「明治六年」十月十七日

（別紙ニツ折上包）（別筆）「三條様」

（巻封）「江藤参議殿 實美」

緊要之御用有之候ニ付、早々御出頭被成度、此段及御掛合候也

十月十七日

（一枚一九 cm 江 013-275）

30 「明治六年」二月二日

（巻封）「江藤司法卿殿 実美」

至急

相談度義有之候間、即刻参朝有之様致度候也

二月二日

31 「明治五年」十一月二十二日

(巻封)「江藤司法卿殿 実美」

(一枚一八 cm 江 013-276)

明朝十字参朝有之度候也

十一月廿二日

(一枚一六 cm 江 013-277)

32 「明治五年力」月日不明

(巻封)「江藤議長殿 実美」

昨日申入置候支那條約一件、至極差急候間、明日者必返答承度候、
為念一筆申入候也

(一枚一八 cm 江 013-278)

編者註

① 江藤は明治四年八月十日に左院副議長に任じられ、明治五年四月二十五日に司法卿に任じられた(『百官履歴(二)』)。

② 支那條約一件とは、明治四年七月二十九日調印の日清修好条規を改訂することをさすのであろう。

33 「明治五年」六月二十四日

(巻封)「江藤司法卿殿 実美」

内々申入候廣澤一件、鞠獄ニ掛居候官員之者ニ申入度義有之候間、
今明日中愚邸へ入来候様申付有之度候、松本掛居候ハ、同人ナラ
ハ猶更都合宜く、此段申入度、如此候也

六月廿四日

(一枚一八 cm 江 013-279)

編者註

① 廣澤一件は明治四年一月九日に殺害された参議廣澤貞臣(一八三三-一八七二)の事件。既出書翰六一二参照。

② 松本とは、司法省権大判事の松本暢のこと(『明治六年官員録』)。
既出書翰九一参照。

34 「明治四年力」月日不明

(巻封)「江藤殿 実美復」

紙面之趣承候、所勞自愛專要候、今日相招候用向者、肥後米田大参
事義、彼藩ニ於ても当節大ニ國論方向も相立、屹度御用ニも可相立
ニ付、同人を官員ニ御登用相成候ハ、彼是可宜と存候處、差当り
適當之官省闕員も無之ニ付、先制度局ニ出仕被仰付、御試用相成而
者如何と存候ニ付、内々相談仕度存候事ニ有之候、明日出仕無之ハ
一筆内答有之度候、仍如此候也、九拜

(一枚一八 cm 江 013-280)

編者註

① 米田大参事とは、熊本藩大参事の米田虎雄(一八三九-一九一五)。

35 年月日不明

〔別筆、後書〕「三条公方御書」

先頃為見置申候刑法之義ニ付、府藩縣江布告書附草案一紙手許ニ有之候ハ、入用候間、可差越事

(一枚一八cm 江013-281)

編者註

①本書翰は巻紙。

②刑法とは、明治三年十二月二十日公布の新律綱領のことである。

一〇一 三條実美・岩倉具視書翰

1 〔明治元年〕十二月十日

今般

還幸被為在候處、臣等暫滞在、就てハ不肖之身、終始各位輔翼之力を仰き候者勿論ニ候處、殊ニ前途之鴻業百事維新之砌、実ニ諸官同心協力、益勉勵無之てハ不相叶、況や来春再臨幸被為遊候義ニ付、政教遍ク宣布、萬民其業ニ安んし奉迎

鳳駕候様有之度、尤諸官に於て彼我抗抵之害を生し候様之義ハ決而有之問敷候へ共、各局相離れ、自然情実不通候てハ紀律一定庶務百興之

御趣意も不相貫哉ニ付、自今已後第八字より第九字半迄諸官人員を不限、議官に參會し庶務無彼此、各見込一杯を談合、輔闕賛成有之度、此段申入候也

十二月十日

実美

五官

具視

東京府

別紙之通、明後十二日より両輔相第八字出仕ニ相成候間、為心得申入候也

十二月十日

弁事

東京府

右之通申参り候間、為御心得申入候也

十二月十一日

東京府

江藤新平殿

(一枚二二cm 江013-282)

編者註

①この文書は、『三条実美公年譜』『岩倉公実記』にも、『維新史料綱要』『明治史要』にも記載なし。徳富蘇峰『近世日本国民史78新政扶植編』(六二―六三頁)によれば、三条、岩倉の連署で、東京在勤の諸官に与えたものらしい。

一〇二 「金井」之恭書翰

1 「明治 年」三月十日

明十一日内外史連ニテ猿若壺丁目観劇之催し有之候、御閑隙も御座候ハ、御發車奉待上候、尤昨夜彼之最寄出火有之候得共、大体ハ懸念も有之候間敷との事ニ御座候、茶亭ハ一丁め扇屋と申候、御出之節ハ武井連と御尋可被下候、右御案内まで、乱筆不宜

三月十日

之恭拝

江藤公閣下

(一枚一九 cm 江 013 283)

編者註

①本書翰は巻紙。

一〇三 「多久」茂^{しげ}「族」^{つぐ}書翰

1 「明治五年」五月二十八日

(巻封)「江藤盟兄 茂族」

過刻者拝眉大慶之到ニ御座候、然者晦日大隈之邸へ之御約束仕候得共、来月朔日江戸於有明樓、土方大内史、中村大外史等、別杯之約束仕置ニ付、自然御差繰も御座候ハ、同日右之場所迄御出駕被下候得、至極大慶之到奉存候、且又縣廳之義、元佐賀之方へ御引戻

之義、願之通御間届有之、就而者縣名又佐賀縣とも格別不面白、何ト歟古名歟山名歟可然御心氣等者無御坐候哉、乍序相窺度、右旁草略拝呈

五月廿八日

(一枚一七 cm 江 013 284)

編者註

①多久茂族は、天保五年生まれ。明治二年十二月から同三年六月まで太政官少辨・従五位(『官員録』)。明治五年五月二日に伊万里県権令となる。同年五月二十九日に、伊万里県から佐賀県に県名が戻っている。

②土方大内史は土方久元。既出書翰六三1参照。

③中村大外史は元土佐藩士の中村弘毅(一八三八―一八八七)(『百官履歴(二)』、『明治維新人名辞典』)。

一〇四 穴戸璣書翰

1 「明治五年」二月二十七日

(巻封)「江藤様 穴戸」

拝啓 「」

拝啓、今日御院ニ而御示談仕置候通、本省圍込之内江ブスケ居處取極度候處、當人江一見為致候而、然る後造営ニ取り懸度、不然ハ居間其外不都合も可有之歟、就而ハシブスケ江懸合、明日本省へ呼寄せ、家居向一應見せ注文次第造営ニ取懸リ被下候様奉希候、為念此

段一應御報知仕置候也、頓首

二月廿七

(一枚一九 cm) 013-285

編者註

①六戸璣(一八二九-一九〇二)は元長州藩士。明治三年十月二十四日、刑部少輔に任じられ、明治四年七月九日に司法少輔、同年十一月四日に司法大輔に任じられた後、翌五年五月十二日に免官。その後、同年五月二十七日に教部大輔に任じられ、十月二十五日に文部大輔を兼ねている(『百官履歴(一)』)。
②「ブスケ」及び「シブスケ」については既出書翰五七一註②③参照。

2 [明治五年] 五月二日

(巻封)「江藤卿殿

六戸璣

拝復」

拝讀仕候、一昨日来御病氣御再發之由、御加養申上候も、疎之御事ニ奉存候、昨日ハ御取次之間違にて拝晤不得仕候段、残念不少候へとも、いつれ又々相伺可申候、先ハ拝酬迄如此ニ御座候也、頓首

五月二日

再啓、御病氣御加養專一二奉存候

(一枚一九 cm) 013-286

3 [明治五年] 五月四日

(巻封)「江藤様 六戸璣

拜啓」

奉拝啓候、其後御不快いか、被為渉候哉、御保齋專一二奉存候、扨先日御約之通、一同相伺可申覚悟之處、玉乃判事除服之御達ハ御座候へとも、于今不快にて出省不得申、就而ハ小生輩も夫々事務差支り、今日ハ一同罷出候事六ヶ敷候付、先ツ津田鶴田兩判事參館仕候間、先日御内話之件々、御書面ニ御調相成候ハ、いつれも一同拝覽仕可然事歟ト奉存候間、左様被思召置被下候様奉希候、其中不遠小生輩罷出御氣體可奉伺、先ハ為其如此御座候也、頓首

五月四日

(一枚一九 cm) 013-287

編者註

①保齋とは「睡眠などを充分にとる」の意。
②玉乃判事とは、司法省権大判事の玉乃世履のこと。玉乃については既出書翰二九4註①参照。
③津田鶴田兩判事とは、司法省中判事の津田真道(一八二九-一九〇三)と、同明法寮助の鶴田皓(一八三五-一八八八)のこと(『明治五年二月袖珍官員録』、『明治維新人名辞典』)。

一〇五 洪澤栄一書翰

1 [明治五年] 十一月二十日

(上部破れ)

(巻封)「(江藤司) 法卿様 澁澤栄一

(御) 親展

(前開)

過日ハ濱松縣川西徳化^{出仕等}と申者、御省へ御登庸之義奉願候、右ハ如何之御都合ニ御坐候哉、地方之折合方も有之候間、願くハ御採用被下度奉祈候、右ニ付尚一事相願義ハ、神奈川出張裁判所に奥村権少判事^{直兼と申人}義ハ、兼而陸奥租税頭神奈川縣令勤仕之節知り合にて、計算之事にハ長し居候由ニ候間、可成ハ當省へ御譲り被下度候、然時ハ恰も同等にて相應之御交易と奉存候、併兩人とも従是相願候事にて、敢而御取替を以主論仕候義にハ無之候得共、何分御繰合御許容被下候ハ、幸甚不過之至ニ候、右再應相願如此御坐候、頓首

十一月廿日

江藤司法卿閣下

尚々、御省之御都合早々被仰聞度奉祈候

編者註

(一枚二〇cm 1013288)

①澁澤栄一(一八四〇〜一九三一)は、明治二年十一月四日に租税正に任じられ、同年八月十五日に制度取調掛兼勤、二十四日に大蔵少丞、同四年五月九日に大蔵権大丞、同年七月三日に制度取調御用掛、同月二十九日に枢密権大史を歴任。そして、同年八月十日に廃官した後は、同月十三日に大蔵大丞、同年十二月十八日に

紙幣頭を兼任。ついで、同五年二月十二日に大蔵省三等出仕、大蔵少輔事務取扱^{兼官}となる。明治六年五月十四日に「依願免出仕」(『百官履歴(一)』)。

②川西徳化は司法省七等出仕(『明治六年一月袖珍官員録』)。

③奥村権少判事は大蔵省統計寮七等出仕の奥村尚柔(『明治六年一月袖珍官員録』)。

④陸奥租税頭は紀州出身の陸奥宗光(一八四四〜一八九七)。明治四年八月十二日に神奈川縣知事、同年十一月十三日に神奈川縣令に任じられた後、翌五年一月十四日に外務大丞を兼任。ついで、同年二月十三日に兼官を免じられ、租税兼頭、神奈川縣運上所事務取扱となり、三月十二日に「依願免兼官」。同年六月十八日に租税頭に任じられ、「神奈川縣在職中取扱候事務当分之内令之心得ヲ以テ取扱」を命じられるが、八月五日に神奈川縣令之心得は免じられる。同六年五月十五日に大蔵省三等出仕(『百官履歴(二)』)。

一〇六 ジ・ブスケ書翰

1 明治五年七月

(上封筒表) [Monsieur Heito]

(上封筒裏) 「ブスケ^ら付状入之 江藤存」

(中封筒表) [Monsieur Pascalis]

Conseller d'Etat

11 Rue de Solferino

à Paris

le matin]

Yedo Jli 1872

Cher monsieur,

Je prends la liberté d'introduire auprès de vous, monsieur Heito ministre de la justice au Japon, qui se rend en France, accompagné de plusieurs fonctionnaires de son département pour y étudier nos lois, notre organisation politique judiciaire administrative, malgré le nombre des occupations qui vous ont été enfin et si justement rendue, je connais trop votre obligeance pour ne pas m'assurer que vous réserverez à Mr Heito un excellent accueil et lui faciliterez le but qu'il poursuit en sinitiant au mécanisme de nos juridictions administratives que vous possédez mieux personnel, une visite au conseil d'état l'intéressera infiniment. En un mot je compte sur votre bienveillant concours pour lui faire connaître notre organisation générale. Recevez d'avance à ce sujet l'expression de ma vive reconnaissance.

Je suis heureux de saisir cette occasion pour vous apprendre directement mes félicitations, qui pour arriver les derniers hélas ne seront pas les moins sincères. J'ai appris avec un grand vif plaisir votre nomination, pour vous d'abord, pour le pays ensuite, qui apprend enfin à choisir mieux qui les servent avec le plus de lumières et le plus de dévouement.

Permettez moi de faire agréer mes hommages à madame Pascalis, un bon souvenir amical à Henri, esli parmi les collectionneurs de timbre postes, j'en envoie une cargaison, et croyez pour vous même, cher monsieur, à mon cordial et respectueux dévouement

G. Bousquet.

(一枚二一三 四〇一三二〇六)

編者註

①書翰一〇六の1から3の仏文は、佐賀県立図書館『江藤家資料目録』及びマイクロフィルム版『江藤新平関係文書』ではいずれもジ・ブスケの書翰となっているが、実はブスケの書翰である。また両者とも、2番目と3番目の書翰の中味を取り違えている。ブスケについては既出書翰五七一註②③参照。

②右仏文試訳

「パスカリ殿

国務院評定官

ソルフェリーノ通り十一番地

パリ

朝]

江戸 一八七二年七月

日本国の司法卿江藤氏を紹介する御無礼をお許し下さい。彼は貴国の法、政治・法制・行政制度を学ぶために、多数の部下を伴ってフランスを訪問します。多忙のこととは思いますが、私は、閣下が江藤氏を歓迎され、閣下が優秀な人材をお持ちの貴国の行政裁判所の仕組みを(文意不明)することによって、彼が目指している目的の手助けをしていただけるものと確信しております。国務院の訪問は彼の大きな関心をひくものと思われま。一言で申せば、私は、貴国の全般的な組織を彼が知ることができる

よう、暖かいご協力を賜うことを期待しております。この件に關して、私の深甚なる感謝の念をあらかじめ申し述べておきます。この機会に、私の心よりの賞賛の意を直接貴殿にお伝えするのをうれしく思います。貴殿が任命されたことを知り、この職務をこの上なく賢明に、また誠実に果たす人物を選んだものと、まず貴殿にとつて、またお国にとつても、大いにお喜び申し上げます。パスカリ夫人に私の敬意を、また切手の収集家であるアンリには素敵な思い出をお伝え下さい。彼には船荷で切手を発送しました。また貴殿にも深甚なる敬意を表します。

G・ブスケ

2 明治五年七月

(中封筒表) 「Monsieur Bousquet

12 Rue de l'Isly

Paris

(封筒裏)
□□□□□

Mon cher père.

Je t'adresse par cette letter Mr Heito Simpay, ministre de la justice au Japon, qui parcourt la France et l'Europe dans le but d'en rapporter des observations utiles pour l'accomplissement de l'œuvre législative à laquelle je suis venu moi même apporter mon concours.

Monsieur Heito trouvera auprès de toi non seulement l'accueil le plus

empresé et les attentions due à sa haute position et à l'importance de la mission, mais tu te feras, j'en suis sûr un plaisir de te mettre à sa disposition pour lui faire connaître l'organisation et les principes de l'instruction publique chez nous qui l'intéresseront vivement. En outre je te prie de le mettre en relation avec nos nombreux amis au barreau et de la magistrature, dont le concours pourra lui être utile pour étudier notre organization judiciaire et administrative.

Je voudrais être moi meme en France pour accompagner Monsieur Heito et lui faciliter l'étude qu'il va entreprendre, mais en mon absence tu te feras un plaisir de lui manifester ma reconnaissance en lui faisant un accueil digne de celui que j'ai reçue moi meme auprès de lui.

Ton fils respectueux qui t'aime

Georges Bousquet.

(別紙) 「Monsieur Devenet

Avocat

17 Place de l'école medecin]

編者註

① 右仏文試訳

「ブスケ殿

リスリ街十二番地

(一枚) 11 冊 江 013-261)

パリ

〔押印欄〕
□□□□

親愛なる父上へ

江戸 一八七二年七月

日本国司法卿江藤新平氏がこの手紙を持ってあなたのところに伺います。江藤氏は法制上の成果を挙げるのに役立つ視察を行ない、報告するという目的で、フランスとヨーロッパを歴訪します。これには私も協力することになっています。

父上からは、江藤氏がその高い地位と任務の重要性にふさわしい熱烈的歓迎と注目を受けられるよう、取り計らってくださいことをお願いします。私の方は、彼が強い関心をもつと思われる公教育の組織と原理について、私のもとで彼が自由に学べるように喜んで手はずを整えています。それに加えて、多数の弁護士や行政官の友人と知り合いになれるようお願いします。彼等の協力は、彼がわが国の法制・行政を学ぶに当って役に立つでしょう。

私自身がフランスに江藤氏に同行し、彼が企図している調査を助けることが出来たらと思います。しかし私は行けませんので、私が彼から受けたような歓迎を彼にもして差し上げることで、私の感謝の念をお伝え下さい。

あなたを愛する息子より

(別紙) 「ドゥネ氏

弁護士

医学学校広場十七番地」

3 明治五年七月

(中封筒表) 「Monsieur le Blond

Ancien procureur général à Paris
Member de l'assemblée nationale

80 Rue hauteville

Paris

le matin

」

Yedo Jhi 1872

Mon Cher Oncle

La présente lettre te sera remise par Monsieur Heito ministre de la justice au Japon, qui se rend en France pour étudier notre pays au point de vue des améliorations à introduire dans celui-ci. J'ai depuis plusieurs mois travaillé sous la direction de Monsieur Heito et je suis heureux de pouvoir aujourd'hui lui réserver auprès de toi un accueil sympathique et bienveillant. Il te demandera de l'éclairer de tes conseils et de le guider dans la connaissance de notre organization politique et judiciaire, où tu es plus compétent que qui que ce soit. je ne doute pas que grâce à ton excellente direction il ne rapporte de son séjour en France des observations qu'il saura mettre à profil lors de son retour. Je compte sur ton obligeance pour l'introduire dans le monde judiciaire et lui faire connaître aussi le monde politique, pour lui indiquer enfin, au milieu de la complication de nos lois, les points principaux sur lesquels devra se porter de préférence son attention. En lui rendant ces bon offices tu ne mériteras pas seulement la

reconnaissance de monsieur Heito et de ceux qui l'accompagnent
mais tu grossiras la dette de ton neveu qui l'aime.
Georges Bousquet.

編者註

①右仏文試訳

「ル・ブロン殿

元パリ検事総長

国議院議員

オートヴィーユ通り八〇番地

パリ

(一枚二二 cm 江 013-290)

朝

江戸 一八七二年七月

親愛なる叔父上へ

この手紙は、日本国司法卿の江藤氏により、あなたのもとに届くこととなります。彼は日本改善をもたらすとの見通しにたつて、あなたの国を研究するためにフランスにやってきました。私は前から、江藤氏の指示のもと、何ヶ月にもわたって努力を重ねてきました。あなたによれば、今日、彼に対する暖かい好意的な受け入れを取り付けることができたとのことで、うれしく思います。江藤氏は、あなたの国の政治・法制組織を知るにあたつて、あなたが助言や指示を与えてくださるよう求めるでしょう。あなたはこの点で誰よりも適任だと思われます。あなたの適切なご指導により、視察のためのフランスでの滞在に関して、帰国の際に報告書を作成できるものと確信しております。お手数ですが、法曹界に紹介し、また政界にも知己を得られるようにし、フランスの複雑な法制度の中で、彼が注意を向けるべき原則的なポイント

はどの点であるか、わかるようにしてあげてください。
彼の面倒をみることで、あなたは江藤氏とその同行者に感謝されるだけでなく、あなたを愛する甥もあなたに一層強い恩義を感じるようになるでしょう。

ジュールジュ・ブスケ

4 [明治五年] 六月十七日

(封筒表) 「江藤司法卿 ジブスケ

閣下

」

貴翰奉拝誦候、然者如尊諭甚暑之節、愈御壮健奉恭賀候、陳而者結構之品多々御恵投被下難有、恐縮之至ニ奉存候、右者御禮旁貴復迄可得御意如斯御座候、恐惶謹言

ジブスケ

六月十七日

江藤司法卿

閣下

(一枚一八 cm 江 013-292)

編者註

①本書翰は巻紙。

②文末の「ジブスケ」は、本文とは異筆。この後も同様。デュ・ブスケの自筆と思われる。

5 [明治五年] 八月八日

貴簡落掌仕候、時下益御清康奉恭賀候、過日者参館仕候處、御繁忙

中緩々御談話被下難有、其節相願置候平山成一郎之一条も一兩日中二者御返答可被下申、何分ニも宜敷御周旋被下候様願入候、將又飛脚船之義ニ付御申越之趣委細承知仕候、今日之船便を以て香港飛脚船問屋迄一紙相贈候、廿三日之便或其次便ニ而、少トモ八人御出帆可相成ニ付、萬端無御不都合様取計ひ呉候様相頼可申候、左様御承知可被下候、右貴報迄可得御意如是御座候、恐惶謹言

八月八日

ジブスケ(サイン)

江藤司法卿

閣下

(一枚一八 cm 江 013-293)

編者註

①本書翰は巻紙。

6 (明治五年) 八月二十五日

(封筒表)「江藤司法卿 ジブスケ

閣下

」

御書簡落掌仕候、然者佛國公使今日出京可仕之處、明後日迄出京延引致シ候由、過刻申越候間、此段一寸と申上置候、尤昨日申上候通り公使着京次第早速御報知可申候間、左様御承知可被下候、右者答迄可得御意如是御座候、恐惶謹言

八月廿五日

ジブスケ

司法卿江藤新平

閣下

(一枚一九 cm 江 013-294)

編者註

①本書翰は巻紙。

②佛國公使とは、第四代理公使コント・デ・チューレン明治四年十月のこと
(「明治史要附表」)。

7 (明治五年) 八月二十八日

以手紙奉啓上候、然者先日佛公使參館之御返札トシテ同人旅館迄御枉駕可被下旨公使へ申通候處、同人義も深ク難有存候、然ル處全ク右御返札ノミノ為メニ態々遠路之濟海寺迄御來駕被下候而者、公使ニ於而甚以而恐入、且御光來之序を以テ午後又ハ晩飯ナリ共差進度候得共、當地旅館ニ而者萬事不備ニ有之、且閣下近日御出帆之節者是非共横濱へ御立寄可有之と存候ニ付、同所御滞留中御都合宜敷キ日ヲ撰ヒ御入來相願ヒ、疎飯差進メ度候間、此度者御來臨之其節迄御延引被下候様致度、此段公使ヨリ被托候ニ付拙者ヨリ申上候、就而者乍御面倒、横濱へ御出張之日限并同地御逗留日數共、前以て拙者迄御報知被下候様奉頼候、右之段可得御意如是御座候、恐惶謹言

八月廿八日

ジブスケ

司法卿江藤新平

閣下

(一枚一八 cm 江 013-295)

編者註

①本書翰は巻紙。

8 〔明治五年〕九月四日

以手紙奉啓上候、然者一昨日ハ拙宅へ御来臨被下候處、折悪シク留守中ニ而不得拝顔、甚以失敬仕候、陳而先日司法省ニ而御面會申候節、當月六日横濱へ御出可被成由御申聞ケ有之候ニ付、右之趣早々公使へ申達候處、公使者同六日午飯ノ為メ御招キ申上度ト返答有之候ニ付、明後六日十二字少々前弁天公使館ニ御来駕被下候得バ、拙者ハ同所ニ御待受可申上候、就而者乍御面倒右之段御承知之御報一應拙者迄御遣シ被下候様奉願候、此段可得御意如是御座候、恐惶謹言

九月四日

ジブスケ(サイン)

司法卿江藤新平

閣下

(一枚一八 cm 江 013296)

編者註

①本書翰は巻紙。

一〇七 司法省録書翰

1 〔明治六年〕六月二十三日

別紙之通外務省へ申越候間、御返納相成候様御取計可有之、此段申答候也

六月廿三日

司法省

録

江藤参議

執事御中

編者註

①本書翰は司法省罫紙。

(一枚二九 cm 江 013297)

一〇八 島田次兵衛書翰

1 〔慶應四年〕九月三日

(巻封)

肥後藩

會計御局 島田次兵衛

常陸下総兩國之全圖ニ付被仰越候趣奉拝承候、左京亮全持下居候間、乍延引即御返上仕候、可然様御執計可被下奉願候、以上

九月三日

編者註

(一枚一九 cm ㊦ 013-298)

①左京亮とは、長岡(細川)護美(一八四二〜一九〇六)。肥後藩主慶順(のち韶邦)の弟。

②島田次兵衛は、『肥後藩国事史料第八』二四一頁に名が見える

「(熊本)藩先鋒隊従軍者島田治兵衛^{江行定詰 留後也}」と同一人物か。

一〇九 島田芳橘書翰

1 [明治 年] 三月九日

(封筒表) 「江藤新平様 島田芳橘

侍史

(封筒裏) 「江藤様 島田芳橘

御内啓

奉拝呈候、過刻ハ御用繁御半、態々御運被下候趣之處、折悪敷外出中御無礼千萬奉存候、就而ハ先頃方折角御入被下候様奉願候含罷在候得共、昼夜御用繁迎も御暇繰被為出来間敷事と控居候處、幸不計御来駕残念奉存候、只今帰宅候条、自然御^應被為在候ハ、只今方御光臨被成下候義ハ相叶間敷哉、深々奉希候、参殿拝話可申上筈ニ御坐候得共、緩々御話申上度心得二付、何卒願ハ御光駕被下候ハバ幸甚奉存候、此段申上度、草々如此御座候、已上

三月九日

尚、以過刻ハ存寄無御座、結構之銘酒一樽并二御茶御惠贈被下置、深々難有奉謝候、尚拝姿可奉謝候、頓首

編者註

(一枚一六 cm ㊦ 013-299)

①島田芳橘は佐賀人で医者。長崎病院の医学生で、相良宗藏の知り合い(『鍋島直正公伝』第五編四九八頁)。

2 [明治 年] 三月十日

(巻封表) 「江藤様 芳橘

御内呈

最前ハ差付我俣奉願恐入候、願ハ今夜夕方方御光臨被下候様奉待候、自然御故障御座候ハ、明後十二日夕方方御来駕被下度奉願候、此段得鳳旨度、忝々如此御坐候、頓首

三月十日

(一枚一六 cm ㊦ 013-300)

3 [明治 年] 三月二十六日

(封筒表) 「江藤新平様 島田芳橘」

(封筒裏) 「^{松園}」

奉呈、昨日ハ卒度拝趨候處、御出仕中残念奉存候、偕御用繁之御半毎々奉恐縮候得共、自然御透被為在候ハ、七半時頃御枉駕被成下候義ハ被相叶間敷哉、粗々御家内様迄申上置候条、否此者二而被仰知

被下候、勿々以上

三月廿六日

江藤賢臺

侍史

芳橋拝

(一枚一八 cm 江 013-301)

編者註

①本書翰は巻紙。

一一〇 島地黙雷書翰

1 [明治四年] 十二月三日

(封筒表)「江藤副議長様

島地黙雷

御侍史

拝啓、過日ハ御風邪之際多人数登門、意外之長話仕奉恐入候、折柄多々御芳響者被海岳難有奉存候へハ、尔後小生鳥渡御礼ニ拝趨仕候處、御留守ニ而遺憾ニ奉存候、然而雜肴一折奉差入候へ共、有合せ之輕品法主ニ差上候間、何卒御笑留被成下候様冀候、右申上度、倉卒失敬申上候、頓首々々

極月三日

江藤様

黙雷拝

御執事下

(一枚一七 cm 江 013-302)

編者註

①本書翰は巻紙。

②島地黙雷については、既出書翰四二一註⑮参照。

一一一 島本仲道書翰

1 [明治六年] 一月六日

(封筒表)「島本仲道(異筆、後日筆記)

江藤老臺様

拝酬

拝復、益御安泰ニ御加寿之趣奉謹慶候、当第除夕之頃ニ少々疝氣起り意外之御無音申上候、明日ハ早朝ニ無相違参堂可仕候間、御心可被安候、相急此段御答而已、早々百拝

第一月六日

仲道

江藤老臺

研北

(一枚一八 cm 江 013-303)

編者註

①本書翰は巻紙。

②島本仲道については既出書翰五六一註①参照。

2 〔明治六年〕三月一日

尊翰拝見仕候、乍早速日外啓上之一軸高意ニ相叶候趣ヲ以、過分之
名品拝領之段被仰聞、何共御禮可申上様無之奉存候、誠ニ過分なる
御品あまた御請申上候も安シザル儀ニ候へ共、折角之厚意ニ依り難
有拝載仕り、家内共へも相ほこり候次第、御令室様へも宜敷御禮奉
願上候、先は御請旁申上度、早々如此御坐候、恐々謹言

第三月朔日

卿様

な可道

(一枚一九 cm 江 013-304)

編者註

①本書翰は巻紙。

3 〔明治 年〕五月二十五日

奉拝展候、杉野へ之尊翰御用序ヲ以早々相達可申、此段御請迄、
草々頓首

五月廿五日

な可道

江藤様

(一枚一七 cm 江 013-305)

4 〔明治六年力〕六月十四日

(封筒表)「江藤様 奈可道」

奉拝見候、此月御不快被為在候由、呉々も御自重可被遊候、僕事も
昨日来少々時邪ニ觸レ引籠居候處、今日ハ快く候ニ付カナラス参殿
可仕、不取敢御請迄申上候也

六月十四日

仲道

江藤先生

(一枚一七 cm 江 013-306)

編者註

①本書翰は巻紙。

5 〔明治六年〕六月二十六日

拝復、今朝者参上可仕ト存居候折節カナラス参殿可仕候也

六月廿六日

な可道

参議公閣下

(一枚一六 cm 江 013-307)

編者註

①本書翰は巻紙。

6 〔明治五年力〕六日

(封筒表)「司法卿殿 大丞

侍史 「」

拜復、高論之趣奉謹承候、昨今監部之官員老人相見へ應對中、頓而退散直ニ参殿可仕、此御請込、草々不盡

六日

(一枚一六 cm 江 013-308)

7 「明治五年力」八日

(封筒表)「卿公閣下 仲道」

出勤懸参堂可仕様御使之趣奉謹承候也

八日

卿公閣下

仲道

(一枚一七 cm 江 013-309)

編者註

①本書翰は巻紙。

8 「明治五年力」二十六日

(封筒表)「江藤卿閣下 大丞

極親展 「」

奉拝見候、然處昨日之寒氣ニ疝氣愈發し、今朝未夕蓐中ニ罷在候仕合候、就而者今日たけ出勤者御断致置候、為差義ニ者無之候間、御

退出御帰宅之頃ニ者伺候事出来可申卜奉存候、此段御断旁早々百拝

廿六日

卿様

拙生

(一枚一七 cm 江 013-310)

9 「明治五年三月力」十五日

御所旁如何被為渡候哉、何分厚く御自重可被遊候、省中何モ別條無之候間、御安慮可被遊候、昨日申立置候軍刑律御手元江備置候間、緩々御経看奉願候、退省懸此段込申上候也、敬言々々

望日

島本な可道

江藤卿公閣下

(一枚一七 cm 江 013-311)

編者註

①本書翰は巻紙。

②『明治史要』明治六年四月十三日条に「軍人犯罪律ヲ改正ス。軍人ノ犯罪ニ在ラスト雖モ、本律ヲ以テ處刑ス。後備兵等、現ニ服役セサル者ハ、常人ト同ク、法司ノ處分ニ委ス。」とある。

10 「明治六年力」四月十三日

(封筒表)「司法卿様 大丞

極直展 「」

拝見仕候、武^{耳カ}云々御尤ニ奉存候、其連ニ取斗可仕候、此段申上候

也

四月十三日

卿様

編者注

①本書翰は巻紙。

な可道

(一枚一六cm

江013312)